

2 外科術後の消化器症状－腸閉塞－

腸閉塞では、腸内容の通過障害のためにガス、糞便などが腸内腔に充満し、腹痛、嘔吐、腹部膨満などの症状を呈する。腸閉塞は原因により2つに分けられる。1つは腸管の器質的な病変により腸管内腔の狭窄、閉塞を起こすもので、機械的イレウスと呼ばれ、(1) 開腹手術後や腸管の炎症により起こる癒着、(2) 大腸がんなどの腫瘍そのもの、(3) 腸の炎症性病変による腸管の狭窄などによって引き起こされる。2つ目は直接的に腸管を閉塞するものがあるわけではないが、虚血などにより腸管運動が極端に障害されるために起こる麻痺性イレウスである。がんの手術では広範囲の腸管の切除やリンパ節の廓清かくせいが行われるため、癒着による機械的イレウスや、神経のダメージや虚血による麻痺性イレウスが起こりやすい状態となる。

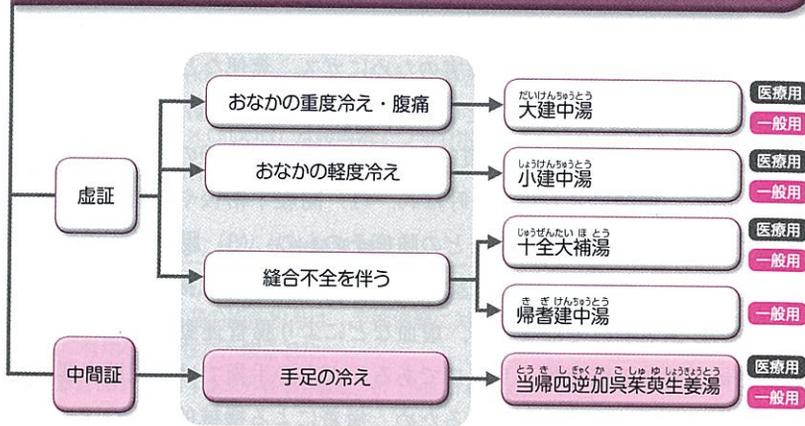
西洋医学の治療

機械性イレウスでは、腸管の閉塞と同時に腸間膜も締め付けられて腸管壁の血行障害を起こし、腸管が壊死に陥り、急激に激しい腹痛を訴え、ショック症状を起こし全身状態が急速に悪化する事があり得る。これは、絞扼性イレウスと呼ばれ、緊急手術が必要となる。緊急手術を要さなくても、機械的イレウスの場合は原因となる腸管を閉塞している原因を取り除くのが原則である。それに比べ、閉塞する原因の明らかでない麻痺性イレウスの場合はイレウスチューブを挿入して、腸管の内圧を減じて、点滴により脱水症状の改善を図るのが原則である。血流改善により虚血状態が改善して腸管蠕動が開腹するのを保存的に待つ。

漢方治療の特徴

機械的イレウスに対しては外科的処置が必要なので、漢方的治療は優先されない。麻痺性イレウスの場合には虚血状態が原因となっているため、腸管の血流を改善する漢方薬が大いに役立つ。いわゆる保存的治療を選択する場合、西洋医学でもメンソールの温湿布などで温めることがあるが、基本的に温めて血流を改善し、虚血状態から脱するのが目的である。漢方

外科術後の消化器症状—腸閉塞—



薬のなかには腸管を温める作用のあるものが多く、これらを選択する。癒着を防ぐ目的で手術直後から用いられることもあるし、癒着性イレウスの治療や予防として用いられることが多い。

漢方薬の場合、腸蠕動が過度に亢進している場合には腸管運動を抑え、腸が麻痺している場合には蠕動運動を刺激するというように、腸管運動のバランスをよくすることによってイレウスを治す点であろう。こうした作用は西洋薬にはない特徴である。

🌸 処方選択までのアプローチ

現在、術後イレウスの予防のために幅広く用いられているのが大建中湯^{だいけんちゅうとう}である。手術後、飲食が可能となった時点ですぐに大建中湯^{だいけんちゅうとう}を開始するという方法が幅広く用いられている。腸管の蠕動運動を亢進させることで、腸同士または腸管と腹膜や他の臓器との癒着を予防し、早期の退院が可能となる。大建中湯^{だいけんちゅうとう}の原典は『金匱要略』なので、1,800年前である。その時代にはもちろん開腹手術などはないが、手足や腹部が冷え、腹痛や腹部膨満感や吐き気や嘔吐を訴える状態に古くから使用されている。このような症状は腸閉塞の症状とも似ているため、外科手術後のイレウスなどに使ってみると、実際に効果があることが確かめられ、現代的な使い方がされるようになった薬である。

大建中湯^{だいけんちゅうとう}は人参・山椒・乾姜・膠飴^{こうい}の4つから構成される非常にシンプルな薬である。人参は体力や抵抗力を高める補気薬の代表で、さまざまな臓器の働きを高め、腸管運動の改善や消化吸収機能をよくする。山椒は鰻にかけるサンショウの成熟果皮だが、辛味成分のサンショオールが腸管の蠕動運動を直接刺激する。乾姜はショウガを蒸して乾燥したものだが、腸管の血流を増加させることにより、麻痺性イレウスの改善に有効である。膠飴はうるち米や小麦の種子に麦芽を加えて糖化させた飴であり、マルトースやデキストリンなどが含まれる。胃腸虚弱や冷えに伴う腹痛を緩和する効果がある。

大建中湯^{だいけんちゅうとう}に山椒が含まれており、これが結構辛みが強い。そのために飲めない人もいるので要注意である。こうした人でも安心して飲めるものには**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}がある。**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}は**大建中湯**^{だいけんちゅうとう}と同じく建中湯類であるが、内容はかなり異なる。すなわち**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}のもとになっている**桂枝湯**^{けいしとう}は桂皮・芍薬・甘草・大枣・生姜から成り、そのうち芍薬が増量されると過敏性腸症候群などに使われる**桂枝加芍薬湯**^{けいしかしやくとう}となり、そこに膠飴を入れると**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}となる。処方構成は全く異なるが、膠飴が入ることは共通しており、これにより**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}の名がつく。**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}もお腹を温める薬の代表である。

その他複数の開腹手術を経てイレウスを起こしやすい人に対して用いられるのが**当帰四逆加呉茱萸生姜湯**^{とうきしぎくかごしゅゆしょうきやうとう}である。これは疝気と呼ばれる病態に用いられる。疝気というのは冷えると腹部がきりきりと刺すような激しい痛みが出現することである。**当帰四逆加呉茱萸生姜湯**^{とうきしぎくかごしゅゆしょうきやうとう}も当帰や呉茱萸などの血流を改善する薬が多数含まれており、冷えに用いる薬でもある。

適正使用のポイント

エキス製剤の場合、膠飴の入る**大建中湯**^{だいけんちゅうとう}、**小建中湯**^{しょうけんちゅうとう}は量的に通常の漢方薬よりも多く、パックされている場合に通常の漢方薬の倍ほどである場合がある。量が多いので飲みにくいかどうかを聞く。場合によっては医師が意図的に半分の量で処方している場合もあるので注意が必要である。量が多くて飲みにくい場合には熱湯に溶かして飲む方が飲みやすい場合もある。また、**大建中湯**^{だいけんちゅうとう}の場合には、山椒の辛みが強くて飲みにくい場合があるので要注意である。同様に、**当帰四逆加呉茱萸生姜湯**^{とうきしぎくかごしゅゆしょうきやうとう}も呉茱萸の辛みが強く

飲みにくい場合がある。

ライフスタイルにおける注意点

イレウスになるのはお腹が冷える時が多いので、お腹を冷やさないことが肝要である。特に急に冷えてくる晩秋から初冬にかけては注意を必要とする。衣服も重要であるが、食事にも注意を必要とする。食べ過ぎや生もの(刺身等)を多く食べることで体が中から冷えてイレウスになりやすい。

漢方相談へのポイント

繰り返し腹痛を起こす場合には原因として機械的イレウスの可能性がないかどうかを検索しなくてはならない。まずは医療機関を受診することを勧め、閉塞を起こすような疾患がないかどうかを確認してもらい。医療機関において検査をした結果、明らかな閉塞を来すものがないことが確認できた場合には漢方の適応がある。過去にお腹の手術をしていた場合には癒着がある可能性もある。冷えると腹痛や排便異常を来す場合に第1選択として用いるのは大建中湯である。大建中湯が飲みづらいなどの場合に考慮する処方として小建中湯がある。小建中湯は味が甘く小児でも問題なく飲める。普段は小建中湯を飲んでいて、腹痛等が始まりそうな時に大建中湯を飲む、という手もある。また、小建中湯と大建中湯を半々で飲んだ場合には中建中湯という薬になり、イレウスなどに幅広く用いることができる。

漢方薬のEBM

大建中湯 ランダム化比較試験

大腸がんの術後患者175人(盲腸結腸がん119人、直腸がん56人)を対象した研究で、大建中湯の投与は、大腸がん術後のイレウスの発症は減少させないが、術後の腹痛や便秘異常の発症を減少させることが示された。

- 高木和俊ほか：漢方研究，429：270-271，2007.

大建中湯 ランダム化比較試験

直腸がん低位前方切除術を行った18人を対象に調べたところ、大建中湯は大腸がん術後の腸管通過時間を短縮させ、腸管麻痺の改善に有用であると考えられた。

- 永嶋裕司ほか：Prog Med，18：903-905，1998.